

令和7年度 政策評価表

		作成日	令和7年8月27日
リーディングプロジェクト	元気でいきいき“健幸(けんこう)長寿のまち”の実現	ゼネラルマネージャー	健康推進部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	健康推進部長、経営企画部長、市民部長、福祉部長、環境クリーン部長、産業経済部長、街づくり計画部長、建設部長、教育総務部長		
幹事会メンバー	保健センター長、健康推進部次長、市民部次長、教育総務部次長、経営企画課長、広報課長、地域づくり推進課長、地域づくり推進課主幹、文化芸術振興課長、高齢者支援課長、保健医療課長、国民健康保険課長、健康づくり支援課長、健康づくり支援課主幹、みどり自然課長、産業振興課長、商業観光課長、農業振興課長、都市計画課長、交通政策室長、市街地整備課長、道路建設課長、道路維持課長、公園担当参事、河川課長、社会教育課長、スポーツ振興課長、文化財保護担当参事		

【リーディングプロジェクトの方向性】

健康で幸せを感じながらいつまでもいきいきと地域で暮らすためには、充実した医療体制はもとより、市民一人ひとりが自分の心と体を大切にする健康意識の向上が重要となるため、歩くこと等を中心とした生涯を通じた健康づくり、体力づくりを進めていく必要があります。

また、人や自然とのふれあいは、心の豊かさや活力を育むことにもつながります。誰もが外に出て人や自然に触れ活動したくなるように、所沢の豊かな自然を生かした魅力的な散策路の整備や、人々が楽しみを感じる集いの場を増やすなど、「歩いて」「楽しんで」健幸長寿を実感できるまちづくりを進めます。

【令和6年度に実施した事業】

《「主な取り組み」にあたる事業》

3-1-1 主体的な健康づくりの推進（歩くこと等の健康的な取り組みによる生活習慣の改善）	
トコトコ健幸マイレージ事業	健康づくり支援課 国民健康保険課
3-5-1 スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進（スポーツ活動を気軽に楽しめる環境づくり）	
所沢市スイミングフェスティバル開催事業	スポーツ振興課
スポーツ教室開催事業	スポーツ振興課
所沢シティマラソン大会開催事業	スポーツ振興課

≪「関連する取り組み」にあたる事業≫

1-1-1 地域コミュニティの充実（地域課題解決に向けた自発的な取り組み）	
地域づくり支援事業	各まちづくりセンター
1-4-1 自立した生活を継続するための取り組みの推進（介護予防や重度化防止に向けた取り組み）	
介護予防普及啓発事業	高齢者支援課
地域介護予防活動支援事業	高齢者支援課
老人福祉センター等運営事業	高齢者支援課
4-2-3 みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築）	
みどりの基本計画推進事業	みどり自然課
里山保全地域等指定整備事業	みどり自然課
砂川堀水辺保全・散策路整備事業	河川課
5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点の整備・充実）	
「所沢市観光情報・物産館」活用事業(COOL JAPAN FOREST 構想事業)	商業観光課
観光拠点の整備・充実事業	商業観光課
魅力ある街なか空間創出推進事業（6-1-1）	都市計画課
5-3-2 にぎわい拠点のネットワーク形成（新たなにぎわい拠点・観光交流拠点間の回遊性の向上）	
観光客回遊性創出事業	商業観光課
5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進（食を通じた新たな魅力の創出や地産地消の推進）	
ヘルスツーリズム産業創出支援事業	商業観光課
地産地消推進事業	農業振興課
体験農場推進事業	農業振興課
6-1-2 所沢らしい景観まちづくりの推進（所沢らしい良好な景観の形成）	
景観まちづくり推進事業	都市計画課
6-3-4 歩行者・自転車環境の整備推進（バリアフリーに配慮した空間の整備）	
自転車レーン整備事業	道路維持課

【評価及び今後の方針】

令和6年度の取り組みに対する評価
●主体的な健康づくりの推進（歩くこと等の健康的な取り組みによる生活習慣の改善） 「トコトコ健幸マイレージ事業」は令和2年7月から継続して、埼玉県が実施する「コバトン健康マイレージ事業」を活用してきた。令和6年度は、県事業が「コバトンALK00（あるこう）マイレージ」にリニューアルされ、歩数計が廃止となり、スマートフォンアプリに一本化されるなどの変更があったが、引き続き「歩くことを中心とした健康づくり」のコンセプトに基づき、本市の健康増進事業の中心的な取り組みとして実施した。 広報ところざわやところざわほっとメール、SNS等を活用した情報発信を行うとともに、従来からの保健師等の地区活動や乳幼児健康診査、健康増進に関するイベント、庁内各課が発出するチラシや通知等を通じて周知に取り組んだ結果、リニューアル後の初年度となる令和6年度末の登録者数は9,325人となった。 また、スマートフォンアプリで本事業に参加できない市民に向けて、誰でも楽しみながら歩けるよう、歩数計と歩数記録表を使った事業を実施した。

その一方で、令和6年度の平均歩数は6,374歩となり、令和5年度実績（7,231歩）から857歩減少してしまいましたが、より多くの参加者の歩数増加を促すため、令和6年10月から12月にウォーキング促進強化月間を設け、各月一日あたりの平均歩数が8,000歩以上の参加者を対象に抽選で景品を贈呈する取り組みや、本市で開催された「ところんウォーク2024」や「みどりのふれあいウォーク」をイベント参加による市独自ポイント付与の対象とし、歩数増加の後押しを行った。その結果、令和5年度、6年度に連続して本事業に参加し歩数データが把握できる方について、令和5年度同時期の平均歩数と比較したところ、171歩の増加が見られた。

歩くこと以外の取り組みとして、栄養・歯科・健康増進全般に係る各種教室等を開催し、生活習慣病やフレイルの予防等について周知したほか、市民自らが健康づくりに取り組むだけでなく、健康情報を家族や友人といった周囲に広める役割を担う「健康長寿サポーター」の養成講座を開催するなど、健康寿命の延伸と健康増進につながるよう努めた。

●スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進（スポーツ活動を気軽に楽しめる環境づくり）

新たな事業として、「所沢市スイミングフェスティバル」を開催し、水泳を通じて市民の健康増進及びスポーツ振興を図った。午前は競技会の部、午後はフェスティバルの部として浮島渡りや水中玉入れ合戦等のイベントを早稲田大学及び市内水泳事業者と連携して実施し、193人が参加した。

また、「所沢シティマラソン大会」については、35回目の節目となる記念大会として各部門上位10位までを表彰するなど、大会を盛り上げた。初めての2月開催となったが、コロナ禍以降では、最多となる5,249人のエントリーがあった。

そのほか、広報ところざわ7月号の特集では「世界を翔ける所沢のアスリート」と題し、パリ2024オリンピック・パラリンピックに出場する本市ゆかりのアスリートや競技の見どころなどについて紹介した。大会では、市をあげて応援していた本市ゆかりのアスリートが、金メダル獲得などの活躍をした。大会後には、ところざわまつりの開催に合わせて、凱旋パレードと凱旋報告会を実施し、市民とアスリートが交流する場を設けた。本市ゆかりのアスリートの活躍を応援し、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、誰もが気軽に楽しめる「ところんウォーク2024」や「小学生新体操教室」、「健康体操教室」など、ライフステージに応じてスポーツを楽しむ環境づくりを推進することで、第3次所沢市スポーツ推進計画で掲げる3つの基本方針「する」「みる」「ささえる」に則ったスポーツの推進を図った。

●地域コミュニティの充実（地域課題解決に向けた自発的な取り組み）

地域活動としては、夏祭りをはじめ、ウォークラリー事業やモルック大会も実施され多くの方が参加していた。各まちづくりセンターでは、令和5年度に引き続き「とこしゃん体操教室」や体力づくり講座など健康増進に資する事業に取り組んだ。また、多くのまちづくりセンターでは、地域団体や体育指導員等と連携してスポーツ教室・大会を開催し、健康増進のみならず地域住民の交流を促進した。

さらに、地域づくり協議会等とともに前述のウォークラリー事業や地域マップ作りをはじめ、地域の再発見を図る事業を行うとともに、広報ところざわにおいて、「もっと地区自慢」を隔月連載し、各地域における自治会活動などを紹介することで、出歩きの促進を図った。

●自立した生活を継続するための取り組みの推進（介護予防や重度化防止に向けた取り組み）

70歳以上の要支援・要介護認定を受けていない方のうち、偶数年齢の高齢者を対象に、「健幸のための元気アップ大調査」を実施し、介護予防・重度化防止のための知識や、運動・口腔にかかる機能向

上、栄養改善等の日常生活における取り組みについて普及・啓発を行った。

地域包括支援センターにおいては、フレイル予防・認知症などをテーマとした介護予防教室を開催し、介護予防や認知症への正しい理解の推進を図った。

お達者倶楽部については、活動を活性化するため、活動視察や活動発表会を通じた情報収集・交換により、各団体の運営状況や困りごとを把握し、通いの場として継続できるよう支援を行った。

「ところん元気百歳体操」については、活動を支えるトコフィットの養成講座を開催し、サポーターを増やしながら、市内の活動拠点を 78 まで増やすことができた。

老人福祉センター・老人憩の家においては、老朽化する施設を計画的に整備しながら、フレイル予防を目的とした健康体操教室や教養講座などを実施した。

広報ところざわ 9 月号の特集では「認知症 知ろう 語ろう 考えよう」と題し、認知症に関する相談先や支援事業、理解を深めるためのイベントなどを紹介した。

●みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築）

「所沢市水とみどりがつくるネットワーク計画」について、庁内関連事業を相互に連携させ進捗を図ることを目的に、庁内会議「みどりトコトコ・プロジェクト」を開催し、情報共有を図った。

都市近郊に残された数少ない里山の原風景を保全するため、所沢市みどりの基本計画に基づき、三ヶ島一丁目里山保全地域を新たに指定（2.64ha）したほか、3 か所の里山保全地域の指定拡大（合計 0.46ha）を行った。

「砂川堀水辺保全・散策路整備事業」においては、散策路（72.3m）を整備するとともに樹木剪定等の維持管理を行った。また、「東川桜舞う遊歩道整備事業」において、桜並木や遊歩道の維持管理を行った。

●にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点の整備・充実）

「所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO（よっとこ）」においては、本市の観光情報の提供や特産物の PR・販売等を行うことで、魅力発信拠点としての役割を引き続き果たすとともに、YOT-TOKO 文化祭のほか、様々なイベントを開催することで、にぎわい拠点の創出・活性化を図った。（令和 6 年度の推計来館者数は 227,000 人）

市内を歩きやすく、また、歩きたくなるようにするために、まちのにぎわいと美しく豊かなみどりを巡る「まち」×「みどり」のおさんぽコース 10 選のうち「砂川堀せせらぎおさんぽコース」の道標を新設したほか、「狭山湖とトトロの森おさんぽコース」、「八国山おさんぽコース」の道標及び観光案内板を更新した。

魅力ある街なか空間創出推進事業においては、令和 3 年度に策定した「所沢駅周辺グランドデザイン」に示す街のビジョンの実現に向けた取り組みを進めている。この取り組みの一環として先進的な事例となる行政職員及び有識者を講師に招き、官民連携のまちづくりの意義、これまでの成果や今後の取り組みを共有する勉強会を実施した。

また、令和 5 年度に市が主催した、市内各所でのイベントと連携した回遊プログラム「TOKOROZAWA DESIGN WALK（トコロザワ デザイン ウォーク）」については、令和 6 年度は民間主体での開催、市が後援する形となり、民間事業者によるまちづくりへの関心と意欲が高まってきた。これらの取り組みにより、街なかの回遊性やにぎわいを創出するとともに、市民に向けて、拠点間を歩きながらの本市の新たな魅力探しを提案した。

「とことこまちづくり実行委員会」と連携した国登録有形文化財「秋田家住宅」の特別公開や、国登

録有形文化財「旭橋」の電灯復元を進めることにより、文化財を活用したにぎわい拠点の創出に取り組んだ。

広報ところざわ 10 月号では「ところざわまつり」について特集し、ところざわまつりの見どころである、山車や注目イベント、祭りに携わる方の声を紹介した。

●にぎわい拠点のネットワーク形成（新たなにぎわい拠点・観光交流拠点間の回遊性の向上）

にぎわい拠点間の回遊性の向上を図るため実施している「シェアサイクル実証実験」において、事業者への支援を行い、サイクルポートの設置箇所が令和 5 年度末時点の 85 か所から令和 6 年度末時点で 108 か所に増加し、1 年間の利用回数も前年比約 60% 増の約 117,000 回となった。

●観光を軸としたブランド化の推進（食を通じた新たな魅力の創出や地産地消の推進）

クアオルト健康ウォーキングを活用した観光振興を実施する「埼玉県・所沢市ヘルスツーリズム協議会」と協働して、個人向けのクアオルト健康ウォーキングツアーを 20 回実施した。また、普及啓発のため、広報紙（埼玉県・所沢市）や市ホームページ、SNS 等による情報発信を行うとともに、法人向けツアーを行い、観光と健康を融合した事業を展開した。

市内にある 46 の茶園・茶屋の特徴と所在地を狭山茶の知識と共に紹介した小冊子「所沢の狭山茶」を作成し、市内外での配布を開始した。また、安心・安全な地元農産物の調理方法を掲載した「地産地消レシピ」の作成にご協力を頂いている西武学園医学技術専門学校にて、レシピの考案者を講師に迎えた料理教室を初開催したほか、「とことこオーガニックマルシェ」をクラッシー所沢広場にて開催した。両イベント共に、参加者からは地産地消への関心が高まったとの評価を得た。

利用者のリフレッシュに役立つ体験農場については、新たに 1 農場を開設し、合計 10 農場のすべての区画において利用があった。

●所沢らしい景観まちづくりの推進（所沢らしい良好な景観の形成）

令和 5 年度に引き続き、個人宅の草花や庭木のガーデニングを登録し一般に公開している庭を掲載した「とことこガーデンマップ」を作成して、良好な景観の形成につなげるとともに、外に出てまち歩きを楽しむ契機とした。さらに、登録したガーデナー同士や地域内での交流も生まれた。また、所沢らしい景観を市民の推薦で景観資源として登録し、このうち表彰された景観をガーデンマップや市ホームページ等で紹介するなど優れた景観を発掘・共有して外出のきっかけ作りをした。さらに、景観市民活動クラブと実施した景観資源を巡るまち歩きのマップを作成し、4 月及び 11 月に開催した景観展示会で紹介した。

●歩行者・自転車環境の整備推進（バリアフリーに配慮した空間の整備）

令和 5 年度に引き続き、通学路の安全対策に重点を置き区画線の再標示やグリーンベルトの設置等の安全施設設置工事を実施した。

このうち、自転車レーンは、所沢駅西口通り（市道 1-830 号線）において、両側計 1,281 メートルの整備を行い、歩行者と自転車利用者の安全性向上を図った。

【総評】

“健幸（けんこう）長寿のまち”の実現のため、健康意識の向上に結びつくきっかけづくり、そして、健康意識の高まりにより運動を始めた市民が楽しみながら運動を継続できる魅力的なまちづくり、

の2つの観点から事業を展開した。

まずきっかけづくりとして、運動に関しては、ウォーキングを始めとしたスポーツイベントや教室の開催、水泳やマラソンのような運動強度の高い活動から、体操やモルックといった運動強度の低い活動を通じ、ライフステージに応じた誰もが楽しめる事業を実施した。運動以外では、様々な健康教室を開催するだけでなく、農場で自ら野菜を栽培する体験を通して、健康意識を高める機会を提供することができた。

次に、楽しみながら運動を継続できるまちづくりとして、所沢の自然の保全、散策路や自転車レーンの整備といったハード面に加え、「所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO」での文化祭開催や「秋田家住宅」の公開等によるにぎわい拠点の創出、まち歩きマップの作成、地域コミュニティの充実といったソフト面の両面から事業を実施し、歩きやすく、歩きたくなるまちづくりに努めた。

本市の健康増進事業の中心的な取り組みである「トコトコ健幸マイレージ事業」については、参加により歩くきっかけづくりになるとともに、運動量が見える化され、楽しみながら運動を継続できる効果の両方が期待されている。令和6年4月のリニューアルに伴い登録者数が一時減少したが、令和6年度末の登録者数は9,325人まで回復した。また、歩数に関しては、夏季の平均歩数が酷暑により減少し年間平均歩数も減少しているものの、秋季から冬季の平均歩数では増加が見られたことなどから、いずれも一定の効果があったと評価する。

第6次総合計画のリーディングプロジェクトに健幸長寿のまちづくりを位置づけ、各部署が連携してこれらの取り組みを着実に進めてきたことで、本市の健康寿命(※)は、令和元年度から令和5年度までの5年間で男女ともに延伸しており、これまでの取り組みがその一助となったと考える。

※健康寿命：埼玉県が定める、65歳に達した県民が健康で自立した生活を送ることができる期間（介護保険制度における「要介護2以上」になるまでの期間）に65歳を加えて算出したもの。期間は、埼玉県衛生研究所の令和6年度公表の最新データによる。

所沢市健康寿命

令和元年度 → 令和5年度

男性： 83.30歳 → 83.47歳（0.17年延伸）

女性： 85.90歳 → 86.25歳（0.35年延伸）

今後の方針：健幸（けんこう）長寿のまちづくりに向けて

“健幸（けんこう）長寿のまち”の実現には、市民一人ひとりが健康意識を持つこと、所沢市が外に出て活動したくなるような魅力的なまちとなることの両方が重要である。

特に、歩くことなどの運動を始めるきっかけを作り、その運動を楽しみながら継続してもらうためには、散策路の整備など市民が歩きやすくなるハード面での街づくりだけでなく、にぎわい拠点の創出やスマートフォンアプリを利用した運動量の見える化といった、歩きたくなるソフト面の取り組みにより、市民の主体的で継続的な運動を促す環境づくりが重要となる。

本市では、昨年度に引き続き、市民各々が自分のペースで楽しみながら自由に取り組める「心」と「体」の健康づくりに取り組んでおり、併せて市民が自ら歩きたくなるような魅力溢れるまちにするための取り組みを実施している。

今後においても、多くの市民が生涯にわたって、所沢市の豊かな自然、歴史、文化、芸術、街並みに触れ、心を豊かにするとともに、継続して「歩くことを中心とした健康づくり」を楽しめるよう、引き続きハード・ソフトの両部門が連携して様々な施策に取り組み、“健幸（けんこう）長寿のまち”の実現を目指していく。

【SDGsへの貢献】

- | | |
|---|--------------------|
| 1 | 貧困をなくそう |
| 2 | 飢餓をゼロに |
| 3 | すべての人に健康と福祉を |
| 4 | 質の高い教育をみんなに |
| 5 | ジェンダー平等を実現しよう |
| 6 | 安全な水とトイレを世界中に |
| 7 | エネルギーをみんなにそしてクリーンに |
| 8 | 働きがいも経済成長も |
| 9 | 産業と技術革新の基盤を作ろう |

- | | |
|----|-------------------|
| 10 | 人や国の不平等をなくそう |
| 11 | 住み続けられるまちづくりを |
| 12 | つくる責任　つかう責任 |
| 13 | 気候変動に具体的な対策を |
| 14 | 海の豊かさを守ろう |
| 15 | 陸の豊かさも守ろう |
| 16 | 平和と公正をすべての人に |
| 17 | パートナーシップで目標を達成しよう |